

群馬の畜産 みんなの情報室

第323号

発行日
平成27年1月31日

発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 6階/TEL:027-220-2371(代) FAX:027-220-2372
ホームページ:http://www.chikusankyokai.or.jp

【新年あいさつ】

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

群馬県畜産協会は会員の皆様をはじめ、本会が実施している各種事業に参加をいただいている多くの生産者の皆様に支えられ、良質で安定的な畜産物の生産に寄与するため



の団体としてその役割を果たすべく、本年度も役職員一同努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



公益社団法人群馬県畜産協会 会長 大澤憲一

第13回理事会が開催されました

平成26年11月17日(月)群馬県JAビル役員会議室において、本会の第13回理事会が開催されました。

理事会では、本会理事各位のご出席のもと、次の議案が協議され、すべてが原案どおり可決決定されました。

(決議事項)

- 第1号議案 平成26年度変更事業計画及び補正予算の承認について
第2号議案 規程の変更について
第3号議案 肉用子牛生産者補給金業務規程の変更について

なお、平成26年度変更事業計画における実施事業の内容、主な新規事業については次のとおりです。

事業種別	補助	助成	特別	受託	自主	家畜登録	団体事務	生産者事務	計
公益目的									
経営安定支援	6				1				7
経営向上支援	7			6	10				23
安全性確保	6	1		7	5				19
能力向上促進	6		1	2	2				11
収益等									
家畜登録					1	6			7
事務受託							8	1	9
その他					2				2
計	25	1	1	15	21	6	8	1	78

目次

◎(巻頭)新年あいさつ/第13回理事会の開催……………	1	◎和牛登録事務研修会/和牛高等審査……………	7
◎畜産協会の役割と機能(2)……………	2	◎酪農の経営継承に合意……………	7
◎ぐんま畜産フェア(浦和競馬場)……………	3	◎酪農ヘルパー全国協会会長表彰……………	8
◎第17回関東地区ホルスタイン共進会……………	3	◎価格安定支援、各事業の実績……………	9
◎海外視察研修・調査報告(オランダ)……………	4	◎牧場搾乳体験……………	10

【1面からの続き】

(主な新規事業)

- ①都道府県酪農経営国産粗飼料利用体制強化事業
- ②公共牧場活性化支援事業

- ③畜産動産担保融資活用事業
- ④野生獣衛生体制整備緊急対策事業
- ⑤農場HACCP普及促進強化事業
- ⑥馬インフルエンザ等防疫強化等特別対策事業

畜産協会の役割と機能 (2)

公益社団法人群馬県畜産協会 理事兼事務局長 塩原広之

前回は、畜産協会が公益社団法人として拠って立つものは何か、という点を中心に述べましたが、今回は、現在行っている事業の内容と今後どのようなことを行うことが考えられるか、私見も交えて述べてみましょう。

畜産協会の主な事業を資金の種類別に分けると、最も大きな割合を占めるのは補助事業です。平成25年度の事業収益に占める補助事業費の割合は全体の約8割になっていますが、これは、販売家畜などへの価格差補填に見られるように、生産者が積み立てた基金や拠出した資金に補助金を付加して交付する事業が金額として大きいからです。この構図は今後も大きくは変わらないでしょうし、生産者の経営安定に資する全国的な仕組みの地域における窓口として、適正にまた低コストで事業を実施する責務があります。

畜産経営技術の分析や助言及びデータに基づいた経営情報の提供、資金の調達や償還に関する計画の評価など、畜産経営が健全に発展していくための外部支援機関としての役割は、今後も重要な事業として位置づけられると考えられます。また、畜産経営が従来の枠に入りきらない展開を求められている中であって、畜産協会としては、それらのニーズを満たすために必要な支援能力の獲得にさらに努めることが必要です。外部機関等との連携も一層重要となるでしょう。

畜産経営の継承対策も非常に大きい問題です。経営の垂直継承を確固なものとする支援および円滑な水平継承を可能にする仕組みの両面から、問題に立ち向かう必要があります。地域ぐるみでの継承希望者への支援体制の確立、継承者へのサポート体制の充実などによって、その実現を図ることが、当面の取り組みのポイントです。畜産協会にはそのコーディネーターとして大きな役割が期待される、と考えています。

家畜衛生対策への対応の強化も今後の課題のひとつです。畜産経営の孤立化が進む中で、迅速な情報の伝達と必要な対策の実施がさらに重要になっています。また、農場における生産衛生の確立の点からは、飼養衛生管理基準への対応、農場HACCPへの取り組み、アニマルウェルフェアへの対応などについて、支援の強化が必要となっています。畜産協会には、専門的な技術と知識に基づいてこれらのニーズに対応できる人材の育成・確保が求められています。

上記の事業は主に公益目的事業として行うものですが、密接に関連してこれらを支える役割をもつ収益事業の展開も、今後の鍵となります。現在、畜産協会が実施している収益事業は、家畜登録団体から業務を委託されている家畜登録事業、生産者団体からの事務の受託及び生産者の補助事業参加のための事務の受託などです。

これらは、各畜種とも生産基盤や経営を取り巻く諸条件の変化により減少や縮小が続いており、この傾向は、一部の事業においては、今後も続く可能性が高いと考えています。畜産協会としては、自らが持つ機能と各種の関係事業を駆使して、これらを上向かせる一層の努力が求められます。また畜産においても、社会の変化が今までになかった新しい欲求を生み出していることは確かです。今現在の畜産経営のニーズを確実に捉え、新しいサービスを積極的に展開する力を持つことが、畜産協会の実施する収益事業に求められている、と思います。

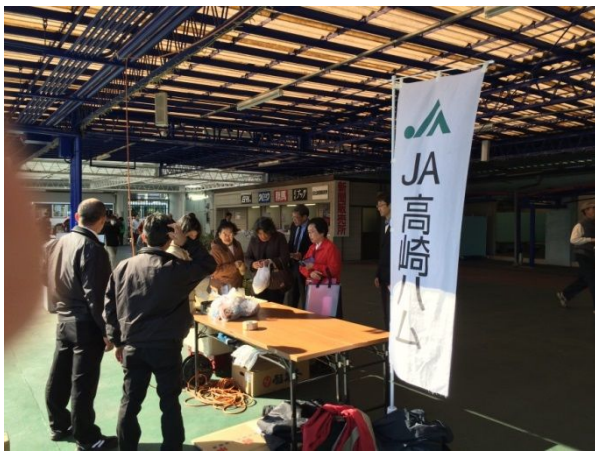


平成26年度「ぐんま畜産フェア」(浦和競馬)

平成26年11月18日(火)、埼玉県・浦和競馬場において平成26年度「ぐんま畜産フェア」を実施しました。

秋晴れに恵まれた当日は、開場から競馬場を訪れた地方競馬ファン先着700名に群馬県産の畜産物(東毛酪農業協同組合・ナチュラルチーズ「酪農組」)を配布しました。

また、JA高崎ハム様のご協力によりハム等詰合せ「お楽しみ袋」の即売をおこないました。配布、即売ともに来場者の方に大好評で、この即売を楽しみにしている方も多く、当日用意されたお楽しみ袋は追加分も含めて完売となりました。



ハム等詰合せの即売



協賛レース(東毛酪農63℃賞)優勝の調教師さん、騎手さんと関係者

この日のレースには、本県協賛レースとして、『東毛酪農63℃賞』(東毛酪農協)、『JA高崎ハム賞』(JA高崎ハム)、『上州和牛賞』(群馬県食肉品質向上対策協議会)、『群馬県畜産協会会長賞』(本会)の4レースが組まれ、それぞれの優勝馬関係者に副賞(アイスクリーム、ハム製品、上州和牛肉、骨付きハム)が贈られました。

地方競馬の収益は、競馬法により畜産振興に充てるよう規定され、畜産施策に必要な財源として活用されています。これからも地方競馬振興へ皆様のご支援をお願い致します。

中之条高校が最高位賞を受賞！

第17回関東地区ホルスタイン共進会

平成26年11月12～13日に、第17回関東地区ホルスタイン共進会が開催されました。群馬県からは第18回群馬県畜産共進会(乳牛の部)で選ばれた16頭が出品され、中之条町の群馬県立中之条高等学校が最高位賞、桐生市の千本木さんがインターミディエイトチャンピオンを受賞しました。なお、各部優等賞以上の結果は以下の通りです。

最高位賞の「カコー ブライト リートン ラストウイン ET」



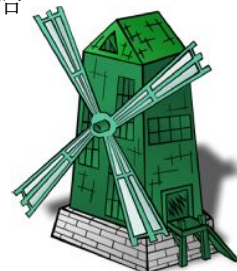
群馬県の出品者及び関係者



部別	名号	出品者	結果	備考
1部	ジンジヤマー パインクリスマスファイバー	茂木貴浩	優等賞2席	
2部	リスペクト GF フリージアアメイズ	三輪圭吾	優等賞2席	
2部	ファインリバンフ リア A フタゴ	遠坂和仁	優等賞3席	
3部	ナコー ブライト S サンチェス カエラツウ	中之条高校	優等賞3席	
4部	アツシユクリーク キンハボック ウイン ジェリア	砥上雅道	優等賞2席	
5部	クリアー KN アトベンジェット RED	星野章好	優等賞3席	
6部	ゴールドリンク R アイオンペト	千本木裕	優等賞1席	インターミディエイトチャンピオン
7部	ファインリコタツチ	遠坂和仁	優等賞1席	
8部	ナコー ブライト リートン ラストウイン ET	中之条高校	優等賞1席	最高位賞、シニアチャンピオン
8部	ブルーエンゼル ターグレス	(有)萩原牧場	優等賞3席	

平成26年度 中央畜産会主催 海外視察研修・調査報告

公益社団法人群馬県畜産協会 畜産振興部 中村俊治



【目的】 世界2位の輸出国であるオランダにおける先進的な畜産経営の実態とそれに係る支援組織の位置づけや役割などについて視察調査する。

【訪問国】 オランダ王国

【期間】 平成26年10月5日から10月11日(移動日含む)

10/6(月)

●「Lely International N.V」

主に酪農家向けの搾乳ロボットや自動給餌機等を生産販売している企業。63ヶ国に輸出しており、アジア圏で拡大中。現在、日本では約240台の搾乳ロボットが導入されている。

オランダはもともとフリーストール方式のため搾乳ロボットを導入する土台がある。もちろん設備投資は必要だが、ロボット導入により給与飼料量が変わらなくても搾乳回数が2回から2.7回へ増やせる投資効果を見込んでの導入となる。

理念として「From Grass to Glass(コップの牛乳の意)」、「No milk without grass」という言葉が示すように、酪農経営における飼料生産、給餌の重要性を元に、必要な農機具を生産し、効率的で楽しい酪農を支援している。



●「酪農経営視察①」

搾乳ロボット導入第一号の酪農家で、家族3人で経営。

搾乳牛150頭、年間出荷乳量1,300t。搾乳ロボット3台と自動給餌器(Vector)を活用。自動給餌の頻度は夏12回給与、冬15回給与。4-10月は放牧実施に合わせて調整している。オランダでは生涯乳量30,000kgを超えるとボーナスがつく。牛を健康で長く生かすことで経営が成り立つと考えている。



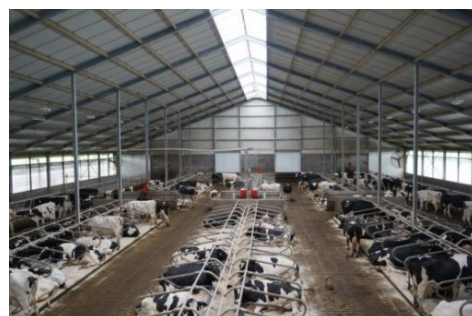
10/7(火)

●「CRV家畜改良組合」

オランダ農協とベルギー農協が母体となり、オランダ7,000、ベルギー8,000合わせた15,000戸の農家で構成される組合組織であり、世界に9つの支社を持つ。主な活動はホルスタイン種とジャージー種の品種改良、精液販売、人工授精、ET、妊娠鑑定、牛群審査を総合的に行っている。牛群検定成績など複合的な情報を生かして、どのような付加価値を付けられるかを検討において、農家が効率よく経営するためのサポート役として活動を行っている。

●「酪農経営視察②～⑤」

1戸目は経営主、息子の二人で、搾乳牛125頭を搾乳ロボット2台で管理。年間出荷乳量1,400t。草地90haを所有するが放牧は実施していない。これまでに10頭の種雄牛造成に貢献するほか、昨年行われたレッド&ホワイトショウのチャンピオン牛出品者でもある。地域からの理解も深く、一般の見学者を常時受入をしている(当日も見学者あり)。



2戸目は経営主と妻の二人で、搾乳牛 175 頭を搾乳ロボット3台で管理。年間出荷乳量 1,750t。ロボットの導入前後で労働時間は変わらないが、出荷乳量は倍増。オランダの人件費は高いので、コスト的にはロボット導入した場合と従業員を雇うのでは、あまり差がなかったと感じている。しかし、搾乳や飼料調整、給餌に係る時間を短縮した分、他作業に時間を割けることは大きなメリット。その他、トレーニングスクールとして、酪農家を目指す人を訓練生として受け入れたり、外部講師を招いて講義を行うなど後継者育成にも取り組んでいる。

3戸目は経営主、両親、雇用2名で、搾乳牛 190 頭を搾乳ロボット4台で管理。年間出荷乳量 2,000t。飼料生産用地 50ha 所有しているが、規模に対して自給飼料が足りないので購入もしている。3年前に建て替えた牛舎は、カウコンフォートを重要視した設計であり、冬は外気温 -20℃でも牛舎内は5℃に保たれるようになっている。発情発見はLely社の首輪の反芻モニターと首ふり測定で自動的にされ、セパレートゲートで分離された発情牛にだけ処置すれば良い仕組みを作っている。

4戸目は経営主、息子、妻、パート1名で、搾乳牛 200 頭を搾乳ロボット4台で管理。年間出荷乳量 2,500t。飼料生産用地 90ha。4年前に新しい牛舎に建て替え、カウコンフォートを重視した結果、乳量が 10,000kg/頭から 11,000kg/頭に増やすことに成功したとのこと。CRVによる牛群検定を実施しており、牛群の成績を把握し改良に活用している。

10/8(水)

●「Vet Vice(農家支援組織)」

Vet Vice は、12 名の専門家で農家の支援と指導者の教育を行う支援組織である。牛が本来得るべき 6 つの自由(水、光、空気、休息、場所、餌)を満実に満たしている状態ならば、末永く健康に過ごすことができると考えている。しかし、適切に設計されていない牛舎では 6 つの自由が制限され病気を起こす牛が多くなる。牛が発信している状態(カウシグナル)を見て、異常等を把握し、健康管理に利用するという取り組みを行っている。そのためにまずは牛を見ることが重要。「エサを食べる」「寝る」「水を飲む」等の行動の中で、牛が何をしているかを見るが、どちらにしても、一時間立ちっぱなしということはある。そういった状態から牛が求めていることを見つける訓練をしている。

牛が健康的な牛乳を生産することで、消費者は安全なおいしい牛乳を得ることができるという考えが基本である。Vet Vice が行っているトレーニングとしては、20~30 人の受講生に対して独自の教科書を使用し座学を行うとともに、農場に連れて行き、実際にその農場の牛がどういう状態なのか意見を出し合い、最終的に合意形成をするという取り組みを行っている。

牛舎内で人間が確認する行動例をいくつか実践したが、それはニードロップテスト(牛床へ膝を落として痛くないか)、糞便が床に落ちる音(手の甲をたたく音がちょうどいい)、尾根の皮膚をつまんだ厚さ(人の頬か腹、手の甲の厚さと比べて栄養状態を見る)といった牛と自分の体を使って簡単にできる事が多かった。単純化することで、農家と支援者の共通の認識にしやすいと考えられている。



また、農家の支援、教育を行っていく上ではコミュニケーションも重視しているとのことである。多くの人が改善は必要と認識していても実際は取り組みに至ることが少ないため、人に対してきちんと伝えていくためのコミュニケーションが重要と考えているためである。

●「Wargeningen U.R(大学、研究機関)」

本大学では、農業関係の教育、研究が主に行われており、今回話を聞いた家畜飼養学分野では、11 の分野(繁殖・遺伝、微生物、海洋生物、細胞、免疫、獣医学、家畜行動学、人と動物等)の研究が行われている。畜種は牛、豚、鶏、馬、犬、猫、蜜蜂の他に動物園での飼育動物が研究対象となっている。特に、反芻動物は人間が食べられないものを利用でき、様々なフードチェーンに関わっていることなどから注目をしているとのことである。学内にあるリサーチセンターでは、政府や海外をターゲットにした研究、開発、教育を行っており、企業や各国政府などからの要請を受けた研究も行っている。



10/9(木)

●「養豚農家視察」

経営主と妻の二人で、母豚 600 頭、年間出荷肥育豚約 18,000 頭規模の経営をしている。現在の肥育豚事故率は1%未満と非常に低い。2013 年に新しく建設した豚舎は、母豚が自由に寝起きできるようなスペースを設けたり、屋根を高くし換気をしやすくするなど、飼養環境へ考慮した設計である。

特色として、飲用水への薬剤投与と飼育豚への一律的な抗生剤投与を中止し、対抗生剤菌へ変異することを防ぐため、必要な豚にのみ投与するという、抗生剤を減らす取り組みを継続している。ブランド作出目的ではなく、豚の健康向上とコスト削減、事故率低減が経営改善につながると考えてのこと。



☆研修を通じての感想☆

○本研修会を通して、オランダ国内の数ヶ所の組織・農家・大学を視察したが、総じて、家畜に対する考え方や経営者としての意識が素晴らしいと感じた。

○アニマルウェルフェアの捉え方が日本より進んでおり、家畜にとって良い環境を設けることで、経営改善の効果をj得るということが実践できている。

○運河の活用法として、放牧地の区切りとして上手に利用している。羊や牛が大通りのすぐ横に放牧されているが、水で仕切ることで余計な柵・設備を必要としていない。

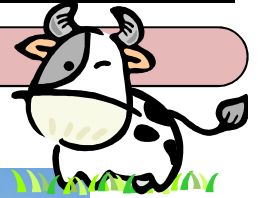
○搾乳ロボットや自動給餌器を導入する上で、機械に頼るというよりは、人間が重点的にやるべき作業と機械に任せられるところを分けて省力化を図っていると感じた。

○そもそもオランダでは「畜産＝やりたい仕事」という認識が高く、初等教育の段階から就農希望の子供が多いという。早い段階から就農への意識があることから、優秀な経営者になることができているのではないかと。

○支援組織の役割が根付いており、酪農に関して言えば CRV のように牛群検定から繁殖管理、全般に関して有用なデータを網羅しているため、無駄がない。生産技術指導については、VETVICE のように、「牛舎にいて、どこを見るか。何を聞くか。」といった日々の管理で重要な事を、わかりやすく指導する組織がある。本県においては、各団体が所有する情報が有効活用されているとは言えないのが現状ではないか。オランダの特色をそのまま取り込むことは難しいが、今後の課題であるとともに、必要な支援策を考える上で大変ためになる研修であった。



畜産振興部より



■和牛登録事務研修会 和牛改良の意義、審査基準を研修

平成26年11月18日に、全農ぐんま渋川家畜市場にて、全国和牛登録協会の菅野成厚氏を講師に招き、和牛登録事務研修を開催しました。和牛改良の歴史や意義、審査基準の講習後、3頭を供試牛として登録審査実習を行いました。

この研修を受講し、1年以上和牛登録または子牛検査実務に従事している人は、登記検査委員の資格を満たすことになります。技術者を育成し、円滑な業務引き継ぎを行うために重要な研修会です。

講習会



審査実習



■和牛高等登録 全頭が合格しました！

和牛の高等登録を実施したところ、受審した14頭が全頭合格しました。高等登録牛は、地域や経営の中で和牛の改良の中核になる牛です。様々な資格条件を満たした素晴らしい牛であるという証明なので、条件を満たす牛がいればぜひ受審してください。なお、細かい条件につきましては、本会ホームページに載せていますので、そちらをご活用ください。

■乳牛の体型調査・牛群審査 多くの牛が高得点を記録しました。

平成26年12月1日～19日にかけて、乳牛の体型調査及び牛群審査を実施しました。受審した牛の中には関東ホルスタイン共進会に出品された牛もあり、共進会の成績に違わない高得点を取っていました。

所有者	名号	生年月日	産次
群馬県立中之条高等学校	サコープライト リートソラストウイン ET	H21.9.8	4産
有限会社 萩原牧場	ブルーエンゼル ロス シェー	H20.12.28	4産
細井 幸夫	クリツパー バーンズ シェルデー	H20.6.26	4産
長坂 喜義	ラブリーファーム ブリッツ ラッキー	H19.9.17	5産

今回の審査で最高得点だった91点を取った牛は表のとおりです。



業務部より

■酪農の経営継承に合意 酪農ヘルパー利用組合による経営継承

現在、利根沼田地区において進められている酪農の経営継承について、去る12月5日(金)、移譲農家の方と、経営資産を継承する新規参入者の間で継承における合意書の取り交わしが行われました。

酪農における経営継承は、北海道において先進的に行われてきている経過がありますが、本州の小規模経営において、①酪農ヘルパー利用組合(事務局JA)と地元市町村等が核となり、②各分野の関係機関等が経営継承をサポートする「経営継承サポートワーキングチーム」を構成し、③酪農ヘルパー利用組合が新規就農者を育成し



合意書への押印



無事、合意となりました

ながら経営継承を行う事例としては、先進的な事例として、関東農政局などにもご支援をいただきながら進められているものです。

本合意により、概ね1年間の酪農ヘルパー利用組合及び移譲農家での就農研修を経て、酪農部門中止予定農家の経営資産を、就農予定者が受け継ぐ形で、新たな農業者が誕生することとなります。

これらは、まだモデル的に取り組まれている段階ですが、離農または部門中止農家の経営資産の有効活用しながら、酪農生産基盤の維持と地域の活性化を図る取組みとして、今後、県内はもとより、他県にも波及する仕組みとして期待されています。

■技術に優れた酪農ヘルパーを表彰 酪農ヘルパー全国協会会長表彰

去る12月9日(火)、東京南青山会館にて、一般社団法人酪農ヘルパー全国協会が主催する「平成26年度酪農ヘルパー事業中央研究会」が開催されました。

この中央研究会では、基調講演、酪農ヘルパー事業事例発表、酪農ヘルパー全国協会会長表彰式が行われ、本県から、技術に優れた酪農ヘルパーとして推薦した、西部酪農センターヘルパー利用組合の酪農ヘルパー縫島昭彦さんと赤城酪農業協同組合連合会の酪農ヘルパー天川ひとみさんが表彰されました。

縫島さんは8年間、天川さんは9年間勤務され、中核的酪農ヘルパーとして意欲的に活動した功績を称えられたものです。おめでとうございます。

これからも、酪農ヘルパー事業の継続と利用組合の発展のため、ご活躍されることを期待いたします。



表彰されたお二人（向かって左：縫島さん、右：天川さん）



天川さんの表彰



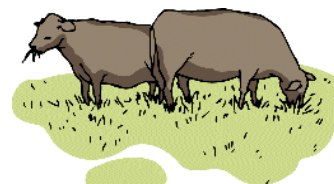
縫島さんの表彰



■肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン事業）

【事業の実績(平成27年1月現在)】

対象期間	品種区分	通常		生産者積立金免除牛		交付金額 (千円)	交付戸数 (戸)	交付日
		交付単価(円)	頭数(頭)	交付単価(円)	頭数(頭)			
平成26年4月期 確定	肉専用種	-	-	-	-	-	-	概算払 6/25 精算払 8/25
	交雑種	36,700	1,335	27,500	151	53,147	129	
	乳用種	44,300	126	33,200	79	8,205	16	
	計		1,461		230	61,352	145	
平成26年5月期 確定	肉専用種	-	-	-	-	-	-	概算払 7/24 精算払 8/25
	交雑種	39,400	920	29,500	242	43,387	110	
	乳用種	45,700	116	34,200	135	9,918	12	
	計		1,036		377	53,305	122	
平成26年6月期 確定	肉専用種	2,900	505	2,100	313	2,122	84	確定払 8/25
	交雑種	63,500	776	47,600	372	66,983	120	
	乳用種	48,900	95	36,600	128	9,330	13	
	計		1,376		813	78,435	217	
平成26年7月期 確定	肉専用種	5,900	585	4,400	336	4,930	100	概算払 9/24 精算払 11/25
	交雑種	72,500	847	54,300	455	86,114	120	
	乳用種	54,300	174	40,700	139	15,106	15	
	計		1,606		930	106,149	235	
平成26年8月期 確定	肉専用種	24,200	467	18,100	303	16,786	84	概算払 10/24 精算払 11/25
	交雑種	67,200	664	50,400	465	68,057	111	
	乳用種	58,800	363	44,100	93	25,446	13	
	計		1,494		861	110,288	208	
平成26年9月期 確定	肉専用種	-	-	-	-	-	-	確定払 11/25
	交雑種	62,000	738	46,500	468	67,518	115	
	乳用種	65,400	398	49,000	47	28,332	15	
	計		1,136		515	95,850	130	
平成26年10月期 概算払	肉専用種	-	-	-	-	-	-	概算払 12/22
	交雑種	29,600	891	22,200	471	36,830	120	
	乳用種	60,300	484	45,200	26	30,360	12	
	計		1,375		497	67,190	132	
平成26年11月期 概算払	肉専用種	-	-	-	-	-	-	概算払 1/27
	交雑種	18,500	1,121	13,800	236	23,995	129	
	乳用種	44,800	408	33,600	7	18,514	11	
	計		1,529		243	42,509	140	
合計	肉専用種		1,557		952	23,837	268	
	交雑種		7,292		2,860	446,031	954	
	乳用種		2,164		654	145,211	107	
	計		11,013		4,466	615,079	1,329	



■肉用子牛生産者補給金制度

【事業の実績(平成27年1月現在)】

対象期間	品種区分	交付単価 (円)	頭数 (頭)	交付金額 (千円)	交付戸数 (戸)	交付日
平成26年4～6月期	-	-	-	-	-	交付なし
平成26年7～9月期	-	-	-	-	-	交付なし
平成26年10～12月期	-	-	-	-	-	交付なし

■肉用牛繁殖経営支援事業

【事業の実績(平成27年1月現在)】

対象期間	品種区分	交付単価 (円)	頭数 (頭)	交付金額 (千円)	交付戸数 (戸)	交付日
平成26年4～6月期	-	-	-	-	-	交付なし
平成26年7～9月期	その他肉専	29,400	0	0	0	交付なし
平成26年10～12月期	-	-	-	-	-	交付なし

■肉用牛肥育経営緊急支援事業支援金に係る返還状況【平成26年12月末現在】

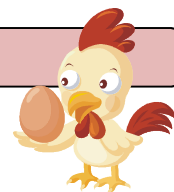
区分	交 付	返 還	未 返 還
対象者数(人)	191	175	16
支援金額(千円)	1,946,500	1,795,900	150,600

■養豚経営安定対策事業

【事業の実績(平成27年1月現在)概算払】

対象期間	平均粗収益 (円)	平均生産コスト (円)	差額 (円)	補填金単価 (円)	交付戸数 (戸)	交付日
平成26年4～12月期	41,022	35,668	5,354	-	-	交付なし

企画管理部より



■牧場へ行って酪農についてのお話を聞き、牛の搾乳をしました。

11月16日(日)、川場村・川田牧場において平成26年度、第2回目となる牧場体験交流会を実施しました。

当日、川田牧場様(川場村萩室)、JA利根沼田様のご協力により、コープぐんま様で参加募集された県内の消費者など42名が、実際の生乳を生産している牧場の現場を訪問しました。川田牧場さんは一般社団

法人中央酪農会議の酪農教育ファーム認証牧場です。

牧場では乳牛のお話、エサのお話などを聞かせていただくとともに、牧場で飼育している経産牛(ヨーデルちゃん)の乳房に触れ、搾乳を体験したり、聴診器で牛の心音を聞かせてもらいました。

多くの方が、実際に触れる乳牛の大きさ、暖かさ、背腹の滑らかさと心音の確かさなどに驚いていました。乳牛、エサのなどのお話を分かり易く聞かせていただいた時には、酪農が牛と人間が命を育み、食を生産する仕事であることに感銘を受けていました。

秋晴れとはいえ、雪をかぶった武尊山から北風が吹き下ろす寒い日でしたが、体験の最後には地元で生産された牛乳がホットミルクで用意され、川田さんご夫妻の暖かいご対応とともに体も心もホッとして、参加者は帰路に着きました



ヨーデル号で搾乳体験



牛舎の前で集合写真



酪農についてお話を聞きました

■高病原性鳥インフルエンザの防疫演習を開催

昨年12月以来、国内で高病原性鳥インフルエンザの発生が報じられています。

これに先立って11月末に県内5地域において各農業事務所家畜保健衛生課とともに高病原性鳥インフルエンザについて特定家畜伝染病防疫演習を実施しました。

(吾妻 11/19、中部 11/20、東部 11/21、利根沼田 11/26、西部 11/27)

各開催において地域内の防疫対応演習(実地、机上)をおこない、今年度は吾妻、西部の2地域で講師を招聘して研修を開催しました。

吾妻地域では、熊本県・城南家畜保健衛生所、濱田公男課長を講師として「熊本県で発生した高病原性インフルエンザの防疫対応～後方支援業務を中心に～」を演題に、昨年春にあった同病の発生における実際の経過、各部署の対応と問題点、必要な点についてご講演いただきました。

一方、西部地域においては、京都産業大学・鳥インフルエンザ研究センター、大槻公一教授に「最近発生している鳥インフルエンザの多様性」として最新の同病発生状況と今後の動向、問題点を解説いただきました。各開催とも多数の関係者、生産者にお集まりいただき、終了後のアンケートでも防疫の意識、知識が向上した内容のご回答が得られました。

現在、高病原性鳥インフルエンザは国内で、いつ・どこで発生してもおかしくない状況です。各位におかれましてはこの研修会の内容等を参考にされ、よりいっそうの防疫強化に努めていただくようお願い致します。

**各部に直接かかる
便利なダイヤルイン電話をご利用ください！**

【部門ダイヤルイン電話番号】

◎企画管理部:027-220-2371(代)

◎畜産振興部:027-220-2360(直)

◎業 務 部:027-220-2365(直)

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています

みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程

群馬で、これまでの高崎場外馬券場から新たに地方競馬の場外馬券場が増えました！！



- ・高崎駅東口から徒歩10分
- ・関越道高崎玉村スマートICから車で5分
- ・関越道高崎インターから車で10分
- ・上信越道藤岡インターから車で15分

場内無料駐車場完備

払戻しは場外発売日のみです。

地方競馬〔場外馬券発売所〕

BAOO高崎〔バオー〕

〒370-0044 群馬県高崎市岩押町12-16

TEL:027-322-5192

◆BAOO高崎

群馬県高崎市岩押町 12-16

お問合せ：027-322-5192

◆オフト伊勢崎

群馬県伊勢崎市宮子町 3074

伊勢崎オートレース場

グリーンスタンド4階・5階

お問合せ：0270-23-0535

北関東自動車道をご利用の場合

栃木県方面よりお越しの方



関越自動車道をご利用の場合

埼玉県方面よりお越しの方



所在地 〒372-0801 群馬県伊勢崎市宮子町3074

📺 ナイター 📺 薄暮開催

2015年 2月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	大井	大井	大井	大井	大井			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			大井	大井	大井	大井	大井	
			SⅡ							SⅢ							SⅡ							SⅢ			

2015年 3月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			大井	大井	大井	大井	大井			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			川崎	川崎
		Jpn II							Jpn II							S II							S I							

2015年 4月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
																													
川崎	川崎	川崎			大井	大井	大井	大井	大井			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			大井	大井	大井	大井	大井			浦和	浦和	浦和	浦和
SⅢ							JpnⅢ					JpnⅢ									SⅠ	SⅠ					SⅢ		

詳しくは南関東4競馬場サイト：<http://www.nankankeiba.com/index.html> をご覧ください

編集後記

今回も「群馬の畜産・みんなの情報室」をお読みいただきありがとうございます。

最近、乳牛の共進会における高校生の活躍には目を見張るものがあります。記事でも書きました関東地区ホルスタイン共進会では、本県の中之条高校が最高位賞を受賞し、ジュニアチャンピオンも栃木県的那須拓陽高校が受賞しました。また、同時期に開催されました九州連合ホルスタイン共進会でも、熊本県の菊池農業高校が最高位賞だったと聞いております。

各地で活躍する高校生達に刺激を受け、畜産業界全体が元気になるのではと期待しています。今年は全日本ホルスタイン共進会が開催される年であり、今後も高校生の活躍に注目が集まりそうです。（1）

